



第一國立銀行
暹度氏報告追補

色一



414
A1126
2



八百七十五年五月七日

第一國立銀行ニ就テノ補遺

曩日ニ報告シタル事柄ニ付テ余ハ澁澤氏ト彌久セル談話ヲ致シタリ
而シテ中原氏常ニ余ニ後テ第一國立銀行ニ趣キ其贊助ヲ蒙ル
實ニ少ナカラス澁澤氏ト面會スルニ及ンテ當今營業ノ方法ト信
用ノ景況ヲ審カニシ有益ナル告知ヲ得タリ然レモ余茲ニ此等ノ
事ヲ辨スルノナク唯第一國立銀行ノ事務ニ付テ余ノ卑見ヲ
述ヘント欲ス

前日報告書ノ三拾九葉 原書ノ三十九葉ナリニ於テ余ハ十六萬七千三百
六十壹圓ノ準備金ノ欠乏アルト及ヒ墨銀ノ金高極メテ多キ
コトヲ論シタリ澁澤氏余ニ告ルニ此墨銀ハ却用準備預金ノ一部
ナルヲ以テス然ルニキハ準備金ノ事ニ付テノ條例ハ全ク遵奉
セラレシメテナリ余故ニ改正表ヲ附ス左ノ如シ

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄

金銀手元有高

一、三三〇、七八八

御用準備預金

一、二二、二一四

内洋銀ヲ減ス

二七五、四八四

差引キ

八三六、七三〇

此金高ト紙幣準備金ヲ二三二、二四一

合シタルニロノ金合計

一、〇六七八一七

差引残金

二六二、九一七

六拾九葉(原稿ノ枚數)ニ示ス種々勘定

一割五分ノ準備

一五四七九四

此差引残金十萬八千百二十三圓八條例ノ限制セル準備

金ニ猶剩餘アルヲ證スルナリ

余ハ必ス銀行ニ告ケテ其準備金ノ明白ニ解認易キ様ニ其勘定ヲ改メシメント欲ス

小野組ニ貸附金

澁澤氏此貸附金ニ就テ元利合セテ五萬八千圓ノ損失ヲ見
込タリ

茅二號

帳面ノ番号ナリ

横濱ニ於テ貸附金二万五千弗

四ノ誤ナル内

一萬圓

茅七號大坂ノ貸越高

五萬四千。四拾圓

茅八號古川ノ貸附金

四千百五十六圓

右合計

六万八千百九拾六圓

豫ノ見込ニタル剩餘

茅三號三万八千圓ノ貸附金ノ内

八千圓

第五号二萬四千円ノ貸附金ノ内

六千八百円

大坂ニ於テノ預品

三千円

合計

一万七千八百円

右剩餘ヲ以損失ノ内ヨリ減スルトキハ

五万零三百九十六円

此金ノ利子ノ概算

八千円

合計 五萬八千三百九十六円

此金高ノ内殆んど半高則二万九千円ハ小野組ノ身代ヨリ濟辦スル得ベシト渋澤氏余ニ語レリ

小野ノ破産ノ久シカラス第一国立銀行ニ於テ第四号二万円及第六号二万円ノ貸附金ノ抵當ヲ差度シ四万円ノ銀行株券ヲ受

取リタリ蓋シ其抵當ノ不充分ナルヲ以テノ故ナリ余ノ見ル所ヲ以テスルニ此處置ヲ決シテ正當ナリト認ムル能ハサルナリ若シ抵當不充分ナレハ増抵當ヲ受テ取ルコソ正當ノ方法ト云フベシ

此大額ナル貸附金ニ付テ渋澤氏ノ意見ヲ聞キ督セシニ渋澤氏モ余ノ説ト同ク不注意ナリト語レリ然レモ銀行ノ役人ヲ餘リ

嚴シク責ムルヲ能ハサルベシ深ク其根源ヲ搜リ求ムルニ始メ政府カ小野三井兩組ヲ強テ第一国立銀行ヲ建テシメタルニ出ヅル

疑ヒヲ容レサル所ナリ小野ノ如キハ銀行創立ノ為メニ送ルベキ金銀アルニ非ス故ニ借金トナシテ再ビ其本金ヲ取戻セリ三

笠村氏余ニ語ルニ齋藤長田ハ此貸附金ニ抗論シタリシカトモ渋澤氏之ニ從ハズ

渋澤氏ハ未タ此兩氏ハ皆テ貸附金ヲ許スニ於テ同意シタリト語レリ此處ニ於テ所論ノ全ク相及スレヲ見ルナリ然レモ是等ノ事

柄ニ付テ當時互ニ相辨論スルハ無益ノ事ニシテ却テ是マデ
親シキ交情ヲ疎スルノ恐レアラシ。唯タ再ヒ如此笑ヲ能ク避ケ
テコソ余ノ望ム如クナリ故ニ余ハ後來注意セシムベキ様カラ
シテ銀行ニ忠告シタリキ

嵩田ヘノ貸附金ニ付テ豫メ見込タル損失ハ三千円ナリ小野組貸
附金豫定損失五萬八千円ト合算スルトキハ六萬一千ナリ而シテ
銀行ニ於テハ七万ノ抵當アリ若シ小野ノ身代ヨリ澁澤氏ノ望
メル如ク二萬九千円ノ金額ヲ拂フヲ得ベキトキ全ク損失ノ
準備十分ナリト云フベシ

自社銀行株券ヲ抵當トシテ貸渡タル金額如左

東京ニ於テ小野組ニ貸附ケ金	七拾萬圓
古川ニ貸附ケ金	拾萬圓
大坂ニ於テ小野善太郎ニ貸附ケ金	四萬圓

合計

八拾四萬圓

當時此株券ヲ買者ナシ故ニ此株券ハ除去セザルベカラズ然ルモ
ハ貳百五拾萬ノ資本減シテ百六拾六萬圓ト成ルベシ此金額
ハ當時商法ノ取引キニ比スルニ充分ナリト云フベシ然レモ澁澤
氏ノ意中ニ此株券ヲ抵當トシテ貸附金ヲ許ルニ稱謂ノ上ニテ
ハ依然トシテ二百五拾萬ト唱へ置テ漸次ニ華族及ヒ他ノ役人
ニ賣附ケント企ツルヲ熟知セリ余ハ此事ニ就テハ切ニ條例ヲ遵
奉セシム可トス條例ニ曰ク株券ヲ抵當トシテ貸附金ヲ為セ
シヨリ六ヶ月ニシテ返辨セラレサルトキハ是ヲ賣拂フベシ若シ
賣能ハサルトキハ之ヲ除去シ資本金ヲ減スヘシ若シ資本金
ノ増加ヲ欲スルトキハ新タニ株券ヲ作りテ之ヲ増スベシ故ニ余
ノ薦ムル方法ハ銀行ノ實際ヲ衆人ニ出告シ條例ノ旨ニ負
クサルヲ欲スルヲナリ政府ハ銀行ノ勘定ノ虚算ヲ許ス

素ヨリアルベカラス正シキ實際ヲ公告スルハ一ニハ銀行ノ信用
ヲ増スノ利アルトナリ若シ虚算ヲシテ差引残高表及ビ諸
簿冊中ニ加入スルヲ得セシメバ到抵銀行ノ信用ヲ盡損スルノ
患アルベシ

小野ニ貸附ケタル全金額 一、三一九、六〇六

内株券ノ抵當ヲ減スル 八四〇、〇〇〇

差引残高 四七九六〇六

此残金ハ其抵當品ヲ賣拂フトキハ再ヒ商業ニ用ルヲ得ベキモ
ノナリ然レモ當時商人トノ取引キ極メテ僅少ナルヲ以テ此金
ヲ貸シ附クルヲ得ベキヤ余深ク疑フ所ナリ且ツ洪澤氏モ之ヲ
疑フカ如シ

余洪澤氏ニ語ルニ商人ト取引ヲ開クノ必要ナルヲ以テセリ三井
村氏曰三井組ニ於テハ其株券ノ一部ヲ賣ルト喜ベリ故ニ余ハ

此株券ヲ商人ニ賣附ケテ之ヲ取締役ニ為サントシテ洪澤氏ニ
薦メタリ株券ヲ數多ノ株主ニ配分スルトキハ小野組ヘノ貸附
金ノ如キ大ニシテ且ツ有害ナル貸出ヲ為スノ患ナカルベシ然レモ
銀行ハ大イニ商法ノ事務ト密接スルニ到ルベシ洪澤氏ノ言ニ曰
ク一等ノ商人ハ狐疑シテ未タ株券ヲ買フヲ肯セス二等三等ハ
之ヲ買ヒ入ルベキ金ヲ所持セズ概シテ之ヲ云フニ商人ノ内一人
トシテ銀行ノ事務ヲ知ルモノナシト又々度々洪澤氏余ニ語レル
トアリ當時在官ノ人ニアラズシテ銀行ノ事務ヲ解スル氏ノ外一
人モアルトナシ余洪澤氏ノ語ヲ真正ナリト認ムルトキハ所謂二
等三等ノ商人ハ金ヲ所持セズシテ銀行ト取引キヲ開クヲ望ム
人ナルベシ然ルトキハ新ニ銀行創立ニ付テハ切ニ注意セザルベカ
ラザルナリ

洪澤氏ハ商人ト當座預カリ勘定ヲ開クヲ好マズ切手帳ヲ以テ

之ニ附異スルヲ危ノリ余ヲ以テ之ヲ見ルニ法澤氏ハ余ヲ細心
ナリト思ハル、ナリ商人ト當坐預勘定ヲ開クハ毫モ懸念スベキ
ナリ而シテ漸次ニ之ニ株券ヲ買ハセ取締役ト為スベシ法沢氏
ハ時々銀行ニ於テ商人ノ集會ヲ催シ之ヲシテ商法及銀行ノ事
務ヲ討論セシムルノ策ニ於テ余ニ同意シタリ余思フニ此策ハ正
路ニ於テ一步ヲ進ムベシト信ズルナリ然レモ銀行ト毫モ金
銀上ニ於テ關係ナキ人ハ著シキ幸福ヲ得ルナキハ勿論ノ事
ナリ
法澤氏ハ内國為替ニ就テ銀行ノ業ヲ張ラント企タテタリ若
シ其方法整修シタランニハ余モ是ヲ熟知センコト望ムナリ
上海ニ於テ支店造立ノ為メ人ヲ送りシコト余ニ語レリ余
是ヲ熟考センコトヲ踰望セリ
氏亦メ倫敦ハ外國為替ヲ開クコト該銀行ニ於テ為シ得ベシト

考ヘタリ余モ此事ニ就テ速カニ卑見ヲ述べ氏ニ送ラント
ヲ約セリ此論說ハ勿論當寮ノ手順ニ送ラント欲ス
之ヲ要スルニ第一國立銀行ニ於テ巧ニ其事務ヲ管理シ
其商法隨テ廣張スルニ至ラハ確然不抜ノ一固體ヲ為シ
得ベキコト論スルヲ待タサルナリ

Blank manuscript page with vertical red lines for writing.

夫
痛
者

